

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	沼津センター		公表日 2024 年 10 月 19 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	4	部屋がワンフロアなため、スペースごとに行う活動を分けています。必要であれば別室をクールダウンや個別療育や集中して宿題を行うスペースにしています。	座席やテーブルの位置を変更し、学習に集中しやすい配置にする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		送迎に出ている際の残りの職員の配置や人選を工夫し安全に過ごせるようにしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	荷物の置き場所や下駄箱、学習スペースは人目でわかるように配慮しています。	ワンフロアなため、活動ごとの区切りが明確ではない。パーテーションやカーテンで仕切りを作り構造化された環境にしていきたいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	4	毎日職員が清掃を行い、清潔な環境維持に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	3	個別支援時、クールダウン、宿題を集中して行いたい児童のために使用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	毎日のケースカンファレンス、毎月1回の職員会議で話し合いを行っています。	すべての職員が参加できるわけではないため、議事録を共有している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎年の評価表の集計時や個別支援計画の面談時に保護者等の意向を把握し、職員で話し合いを行っている。	保護者の意向を把握する機会を増やしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		ケースカンファレンスや個別面談の際に職員の意見を把握し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		第三者による評価は現在、行っていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		年間研修計画に基づき、虐待、拘束、感染、防災等の研修を毎月1回以上を行っています。	外部研修の情報を共有し、職員が目的を持って研修を受けられる体制を作ります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		職員と話し合いを重ねプログラムを作成しています。作成したプログラムはHPに公表されています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		児童発達管理責任者を中心にアセスメントを行い、こどもと保護者のニーズにあわせた計画を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		3ヶ月、6ヶ月ごと職員全員でモニタリングを行なっている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画作成時に共有し、いつでも閲覧ができるようになっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1		放課後デイサービスガイドラインを職員が理解したうえで支援を行う必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		職員会議で意見を出し合い、平日は各職員の担当制で行っている。	担当職員がプログラムを行うが、担当外の職員も一緒に支援に参加し、チームで支援を置こうこと。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		宿題や個別活動のあとに集団活動のプログラムをスケジュールしているが個々に合わせて適宜、変更している。	学校から来所した際の個別療育の時間の確保。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		ケースカンファレンスで毎日打ち合わせを行っている。	支援内容の共有は行われるが役割分担や支援を行う上での協力体制は不十分であった。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援終了後に当日の支援の振り返りやヒヤリハットの共有を行う。	長期休みの際は、遅番と早番の職員に会議の内容の共有は不十分であった。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		専門職員の実施記録やケース記録を取り、支援の向上を図っている。	支援の検証を行う時間が少ないため、支援のたびに時間を確保する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的なモニタリングを行い、修正見直しを計画に反映しています	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		児童の状況に応じて組み合わせる必要がある。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		複数の活動に分けて自己決定し参加できるようにしています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		相談支援事業者やサービス担当者会議に参画する回数が少ないため、連携も兼ねて参画する回数を増やしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2		障害福祉、学校の先生との連携が主で、保育や医療との連携を取ることは現在できていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5		支援の継続性のためにも就学前の利用施設と共有を行う必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		現状、児童クラブや交流がないため保護者やこどものニーズを聞きながら行う必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3		障がい福祉課主催の勉強会や意見交換会は積極的に出席している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			送迎時や面談時に施設内の様子を伝え、家庭での様子を共有していただいている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		家族支援のプログラムの研修は随時、行ってまいります。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			契約の際に、説明させて頂いております。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			契約や計画の更新面談の際にこどもや保護者の意思を確認しています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	1		面談時に説明し同意を得ています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5		保護者参加のプログラムだけではなく、保護者会の計画を行っていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情や意見があった際は上長やが対応を行っている。日頃から保護者とのコミュニケーションを行い、要望や意見を聞いています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		インスタグラムを更新し、日々の活動を保護者に伝えている。	長期の休みの際の報告はインスタグラムだけでなく、施設だよりを配布して共有していきたいと思います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		地域との関わりは課題と感じています。地域との交流を行える活動を企画していきたいと思います。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	毎月、様々な災害を想定した訓練を行っています。	訓練内容や目的を保護者に共有することができていなかった。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	契約時に確認を行い、職員全体で共有しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎日ヒヤリハットを記録し、毎月の職員会議で振り返りを行い、対応策を検討しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待・拘束の研修を年に2回ずつ行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	沼津センター		
○保護者評価実施期間	令和6年9月15日		～ 令和6年10月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和6年9月15日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動が固定化されないように様々なプログラムを用意している。	平日の全体活動は各職員の担当制で行いプログラムが固定化されないように工夫しています。工作や調理等は季節にあった活動を行っています。学校休業日の活動は子どもの意見を取り入れた活動の一つ、社会性向上のための施設外への外出活動、お誕生日会、公園等、様々な活動を用意しています。	五領域を意識したプログラムを設定。また、一つの領域に偏らないようにバランスを考えること。平日のプログラムは担当制だが職員全体で支援を行えるような体制づくり、学校休業日の活動は選択肢を増やし子どもが選択できるようにすること。
2	職員は穏やかに支援を行い、子どもの気持ちに寄り添い、ポジティブなアプローチを重視。職員入れ替わりが少ない。安心して通えるような施設運営。	当日の児童の様子や状況を見て、プログラムを強制することせず、別のプログラムを行うなどの対応を取る。児童の様子を普段から注意深く見ているため、いつもと違う様子の際は聞き取りを行い、悩み事があるときはポジティブな声掛けを意識しています。安心して通うことができる施設運営をしています。	研修や勉強会を通して、児童のメンタル面のケアを行う。活動に参加できない児童に対して個別プログラムの充実
3	SNSや連絡帳を通して情報共有や当日の児童の様子の共有を行っている。	送迎時の口頭での伝達では、当日の児童の様子をすべて伝えることが難しいため、活動中の様子を写真や動画で送り共有しています。動画や写真で送る際は、他の児童が映らないようにしています。	長期休みの活動、毎月の学校休業日の活動など施設頼りとして共有し、保護者の方がどのようなプログラムを行ったか周知できるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の施設が年季が入っているため、受け入れられない児童がいる。	事業所のトイレが古いからと、本来は通所を増やしたい児童から敬遠されてしまっている。 大雨が降ったときに雨漏り箇所があるところ。	トイレに関してはストレスに感じている児童は施設外のトイレの利用を使用できるように調整。 賃貸の為、対応が難しい面もあるが、設備改善に協議していきます。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられていない。	開催予定だったが、新型コロナウイルスや感染症の流行を鑑みて開催することができなかった。	保護者会で話し合いたい内容や日程の調整をアンケートし、感染症の流行の様子を見て開催したい。
3	地域に開かれた事業運営	地域の学校の学童や、ボランティア協議会への連絡ができていない。	就労支援事業所との交流や、近隣の児童クラブとの交流プログラムを計画していきたい。また、地域の行事に参加し、地域との交流する機会を増やしていきたい。